城南保健生活協同組合　第37回 通常総代会

第1号議案　2011年度活動のまとめ（案）

は　じ　め　に

３月11日の東日本大震災から１年２カ月が経過しました。被災地の復旧・復興がすすまず、原発事故の終息もできない中、野田内閣は消費税10%、ＴＰＰ参加、原発再稼働、普天間基地の辺野古移転など、次々に悪政をすすめようとしています。とりわけ「社会保障と税の一体改革」は、医療・介護・年金などの改悪と消費税増税、法人税減税を一体にすすめるものであり、財界べったり、国民生活無視のとんでもない改悪です。引き続き、被災地の一刻も早い復興と原発ゼロ、国民生活第一の政治に切り替える運動に旺盛にとりくみましょう。

２０１１年度　活動の特徴

①　東日本大震災復興支援と原発ゼロをめざすとりくみに力を入れてきました。直後からの現地支援とともに、募金活動や物資支援、避難している方たちの生活・就労支援、放射線測定器による線量測定運動、集会や地域パレード、バザーへの参加、学習会の講師を引き受けるなど、年間を通じて支援と運動を続けてきました。

②　健康づくりの分野では、第２回の駅伝フェスティバル、池上本門寺朝市や商店街・各地域での青空健康相談会、新しい班会などが積極的にとりくまれました。品川（９回目）・大田（27回目）での健康まつり、さまざまなイベントでの健康チェックなどで奮闘してきました。健康体操教室、保健教室、健康運動サポーター養成講座、わくわくヘルスチャレンジなどにもとりくんできました。

③　昨年６月には大田病院地域で「お元気ですか訪問」にとりくみ、高齢世帯の組合員さんに「救急医療情報キット」を配布するなどたいへん喜ばれました。仲間増やしの活動では、10月からの強化月間にあわせて３回目となる「三法人活動交流集会」を開催するなど、事前準備と相互理解を深めることに努力してきました。今回の月間では各診療所長名の訴えの発送が遅れ、前年を上回ることはできませんでしたが、地域訪問を重視してとりくみました。班会開催は目標890回に対して959回（108%）となり、2010年度の900回を大きく超過しました。新班が増えたことや班会が継続したことが特徴であり、健康づくり活動の基礎となる班会回数の大幅増はたいへん重要です。

④　大田病院は東京都区南部医療圏（品川・大田）の二次救急の中心を担い、「東京ルール」の幹事病院として多くの救急車を受け入れてきました。また、回復期リハビリ病棟の開設で地域連携も広がり、差額ベッドのない安心して入院できる協力医療機関として奮闘してきました。2011年度は新卒医師を育てる臨床研修指定病院の存続条件（年間新入院３,000件）をクリアして３人の新卒医師を迎えました。経済的に困難な人への無料低額診療事業も大森中診療所、大田歯科にも拡大して実施されるなど、私たちの保健・医療・介護のセンター病院としての期待が強まっています。

⑤　社会保障改善のとりくみでは、毎月の「くらしと平和委員会」でテーマを決めて学習を行い、署名の推進や支部での運動の活性化、班会での学習にも結びつけることができました。大田病院や社会保障推進協議会、東京民医連西南ブロックなどとも連携して駅頭での街頭相談会、署名宣伝行動、東日本大震災支援募金行動などにもとりくみました。

⑥　認知症対応のグループホームは「みちづか」が８年、「しおかぜ」が３年経過しました。入居一時金なし、生活保護の方も入居できる大田区では貴重な高齢者施設です。どちらも地域の方からの期待と信頼に応えるべく、第三者評価の受審や運営推進会議の定期開催、さまざまなボランティアの参加などで多彩な行事を実施してきました。「しおかぜ」とともに「みちづか」でも保育園との交流がはじまり、日常的地域との連携がすすみ、楽しい家づくりがすすみました。

⑦　認知症対応のグループホームを運営し、認知症の方たちを地域で支える立場から、支部を中心に「認知症サポーター養成講座」を開催してきました。また、両グループホームの運営推進会議で学習会を行ったり、支部が確立できていない地域での講座開催などにもとりくんできました。今後も「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」は重要なテーマです。

⑧　ヘルパーステーションすずらんは事業の安定化、拡大をめざして若手職員の確保をすすめてきました。2011年度は平和島・蒲田地域、馬込・うのき地域で新規利用者確保がすすみ収益を伸ばしてきました。現在、登録事業所は３カ所ですが、早期に利用者増、管理体制を確立したうえで登録事業所増をめざしています。

⑨　大森中診療所で行っている「よろず相談」は深刻な不況の影響もあり、毎月20件ほどの相談があります。現在、月曜から金曜までの週５日の相談体制を確立して生活相談、医療・介護の悩み、労災問題など幅広く対応しています。この中から生活保護受給となる事例や城南保健生協への加入が多くあり、「いつでも・どこでも・だれでもが安心して良い医療・介護を受ける権利」を保障する実践としても、重要な役割を果たしてきました。

各委員会・分野別活動の特徴

保健予防・健康づくり活動

2010年度から健康体操の指導者を育てるための「健康体操サポーター養成講座」と一般向けの「だれでもできる健康体操教室」に分けて開催していますが、「第２回健康体操サポーター養成講座」（6/7～6/21）は13人が受講しました。修了生は、その後に開催の「だれでもできる健康体操教室」（6/28～7/26）で指導体験をしました。この「だれでもできる健康体操教室」の下丸子地域の受講生を中心にして、下丸子健康体操班が誕生。指導体験をした２人の組合員に指導を引き受けてもらい、班長、会計係などを決めて、毎月２回の健康体操班会を行っています。

健康づくりの知識と技能を身につけるための「健康づくり教室」を品川地域で開催（3/7～4/11）。受講者は９人で、大田区の組合員の受講もありました。講義では質問が多く出され、終了時間が延びてしまった科目もあります。「食事」の科目では、味噌汁の塩分チェックを新たに行いました。

活動の基礎となる班会は、大森糀谷支部、豊支部が多彩で活発な班会を行い、池上支部では、職域班が毎月、健康チェックを行っています。その他の支部でも、さまざまな工夫をして班会を続けています。しかし、新班づくりを含めて、班活動の役割はますます重要になっており、大きな前進が求められます。

健康な生活習慣を日常の中に楽しく定着させるための「第５回わくわくヘルスチャレンジ」（10月～11月）で、当面の目標である３ケタの申込者（106人）を達成することができました。スタート集会（9/24、24人参加）では「ＡＥＤの使い方」を講習したり、ゴール集会（12/17、15人参加）では「歯と全身の病気との関わり」という内容のミニ講義を行い、ヘルスチャレンジにとりくんだ体験を交流しました。

みちづか地域交流のつどい

助け合い・まちづくり活動

定例の委員会は毎月開催。「認知症サポーター養成講座」を11月に大田と品川で開催しました。認知症については関心が高く、参加者からは家族の介護の悩みや不安などさまざまな感想がでました。こうしたことから介護ホットライン【すずらん（平和島）内】を開設し、「城南の保健」に毎回掲載しました。

12月には「大田病院のボランティアを考える会」を立ち上げ、毎月１回定例会を開催。病院内でどのようなボランティアができるか、職員と組合員で話し合いをすすめています。４月開催の「大田病院お花見会」でボランティアを募集し、11人の応募がありました。

これからも助け合い・まちづくりにつながる学習会を開催し、地域のネットワークをつくり、安心して暮らせるまちづくり運動をすすめていきます。

くらしと平和の活動

委員会は毎月定例で開催。委員会の前の１時間は毎回「学習の時間」を設け、委員だけでなく、幅広い方々に参加を呼びかけました。今年から講師を委員のメンバーで持ち回りとし、「消費税」、「ＴＰＰ」、「一体改革」、「ビキニ環礁水爆実験について」など各講師が勉強しながら行いました。そのことで、それぞれの委員も力をつけるとともに、運動の活性化や班会での学習にも結びつけることができました。

原水爆禁止世界大会（長崎）には城南ドルフィンから２人の代表と品川地域から１人を派遣しました。

大田・品川の社会保障推進協議会の一団体として、それぞれの事務局として幹事会・駅頭宣伝などにとりくんできました。

また、三法人社保共同組織委員会と連携して「お元気ですか訪問行動」も行ってきました。

文化・スポーツの活動

行事としては、ウォークラリー（２回）、バスハイク（２回）、健康まつり、新春鎌倉ハイキング、ダンスパーティー、駅伝フェスティバルにとりくみました。

日程・参加人数などは「年間主要行事のとりくみ」をご参照ください。

ウォークラリーは、各回ごとにテーマを持ったとりくみが好評でした、春は等々力渓谷と丸子川、秋は京浜運河に行きました。バスハイクは、春は益子への日帰り旅行、秋は安曇野・大町温泉への１泊旅行を行いました。新春鎌倉ハイキングは「やぐら」めぐりをとり入れて、鎌倉の歴史にもふれるとりくみとなりました。駅伝フェスティバルは17チームの参加でした。アットホームな雰囲気の中で楽しい企画となりました。参加チームを増やすことが課題です。新春ダンスパーティーについてはダンス教室の会員を増やす、日程を検討するなど参加者を増やす工夫が課題です。

大田・品川健康まつりは、今年も実行委員会事務局として参加しました。保健生協の支部からの模擬店の出店は５支部９事業所・職場でした。中央舞台に組合員有志のみなさんが多数出演しました。

委員会の開催、新たな行事の企画はできませんでした。

バスハイクへの参加が、その後の支部活動への参加のきっかけとなったり、健康まつりに支部として出店する中で、支部の活動につながるなどの前進面がありました。

調剤・介護・事業活動

●ゆたか調剤薬局

2011年度前半は予算未達が続き大幅な減収かと思われましたが、下期で挽回し何とか予算達成することができました。使用する医薬品の変動で収益に影響が出たり、在宅の訪問服薬指導の件数が伸び悩む１年でしたが、薬品の在庫管理・お薬手帳の普及などで何とか１年を乗り切り、2010年度同様、薬学生の実務実習も受け入れることができました。

2012年度は診療報酬改定でさらなる減収が見込まれますが、医薬品採用の検討や安定した技術料を得るための工夫をし、信頼される薬局づくりをめざしていきます。

●ヘルパーステーション　すずらん

利用者の施設入所や永眠等で大きく変動があり、安定した件数を維持することは困難です。病院の早期退院やがんなど終末期の方の、家に帰りたい思いに寄り添い、医療連携を密に行いながら介護を展開してきています。重症化にともなってケアの仕方や知識、家族援助など広範囲で高度な技術が求められ、介護職員の一層の学習や技術向上が必要となっています。介護の専門職として、今まで以上に医療やケアマネジャーなどとの密なる連携が求められています。法令遵守、感染対策、サ責研修やヘルパー全員対象の研修会など教育委員会活動も活発にとりくみ、サービスの質の向上にもとりくんできました。

2011年度は第２回の「かがやき事例報告集会」を開催し今後も継続発展できるようにしていきます。介護職員は働きがいをもって働いていますが、介護報酬の低さや人手不足など将来に大きな不安を抱えています。人の確保及び計画的な後継者育成、安定した利用者確保は大きな課題です。また、2012年度は蒲田の事業所再開、うのきの事業所開設が急務な課題となっています。

●居宅支援事業

利用者の重症化や困難な方が増えている中、カンファランスを持ちながら、ケアマネ集団として奮闘してきました。介護報酬が変わった中、利用者の生活実態を深くとらえ、必要な介護サービスが提供できるケアプラン作成のために、しっかりとした目と構えが必要です。重症化や医療依存度の高くなる利用者が増える中、ケアマネジャーには今まで以上の業務が求められています。定期的、随時なケースカンファランス開催、城南三法人や行政の研修や学習会に積極的に参加しながらサービスの向上に努めていきます。

2012年度は城南三法人としての居宅支援事業所のセンター化を具体的に検討し、すすめていきます。

●グループホーム虹の家

「虹の家しおかぜ」は開設から丸８年が経過し、入居者の入れ替わりや困難な方の受け入れの中で、入居者ができることを大切にしたとりくみを重視し、“できること探し”をしよう、“こんなこともできる”などを職場会議で報告し合ってきました。民生委員の協力で、地域のつどいへの参加や運営推進会議の定期開催に努めるとともに、新たに保育園との交流がはじまり、入居者を楽しませてくれました。

「虹の家しおかぜ」は３年が経過し、入居者の入院や交替などもありましたが、安心・安全・信頼の家づくりをめざすとともに、職員体制も若返りをはかってきました。毎月の保育園児との交流会、季節ごとの行事やお花見、敬老会など、近隣の方々、町会、民生委員、ボランティアとの交流もさらに広がり、運営推進会議も定期開催に努めてきました。大田病院からの実習学生の受け入れでもたいへん喜ばれています。

若返り班会

●本部・事務局

東日本大震災被災地支援、原発ゼロに向けたとりくみを積極的にすすめてきました。福島で行われた脱原発集会には城南三法人から48人、大田病院を中心に行った原発ゼロ昼休みパレードには120人、その他集会参加や引き続き募金活動にも力を入れてきました。

放射線量測定は大田区・品川区で250カ所を超え、高い数値が出た場所については、区議会議員の協力も得ながら除染の運動へとつなげています。

孤立死、無縁死をなくす課題では、組合員さん宅へ訪問する「お元気ですか訪問」を行ってきました。引き続き行っていく中から地域のネットワークへつなげていきます。

春・秋のバスハイク、駅伝フェスティバル、ウォークラリー、ダンスパーティー、鎌倉ハイキングなど、各種イベントの成功、助け合いの会「たんぽぽ」の活動、各支部・班活動の支援、くらしと平和・保健教育・助け合いまちづくり・機関紙などの委員会活動の事務局、健康まつりの事務局など、さまざまな課題にとりくみ前進させてきました。映画「一枚のハガキ」上映運動の事務局、社会保障の活動分野でも大田区、品川区の地域社保協に参加して事務局を担ってきました。

《機関紙活動》

年間10回の定期発行と内容充実に努めてきました。編集委員会を毎月定例で開催し、より充実した紙面にしていく旨、話し合いをすすめてきました。

大田病院の全館完成から１年後の到達の特集やヘルパーステーションの「かがやき事例紹介」を連載し、とりくみを紹介しています。

2011年度 年間主要行事のとりくみ

春のバスハイク	５月８日(日)	栃木・益子焼きとイチゴ狩り 134人
第９回品川健康まつり	５月21日(土)	戸越公園　800人
「いのちの山河～日本の青空Ⅱ」上映会	５月27日(木)	アプリコ大ホール　950人
春のウォークラリー	６月５日(日)	等々力渓谷　26人
第２回健康体操サポーター養成講座	６月７日(火)～	大田区民プラザ　13人修了
誰でもできる健康体操教室	６月28日(火)	大田区民プラザ　24人
原発ゼロをめざす緊急行動	７月２日(土)	代々木公園　２万人
西南ブロック共同組織活動交流集会	７月９日(土)	中野・生協連会館
震災復興支援のつどい	７月18日(祝)	大田区・新宿小学校
全国鵜の木まつり	７月23日(土)	健康チェック
こらば夏まつり	８月７日(日)	健康チェック
原水爆禁止世界大会in長崎	８月７日(日)～９日(火)	長崎　生協から３人
ドルフィン第28回夏の合宿	８月27日(土)～28日(日)	プール合宿　75人
震災復興と原発ゼロをめざす駅頭宣伝	９月３日(土)	ＪＲ蒲田駅西口 11団体40人
ヘルパー全体交流会	９月16日(金)	大田区生活センター　85人
さようなら原発集会	９月19日(祝)	明治公園　６万人
第３回生協組合員活動と医療・介護活動交流会	10月１日(土)	大田病院会議室　75人
仲間増やし月間	10月１日～12月16日	
第４回わくわくヘルスチェレンジ	10月１日～11月30日	106人が参加
第39回大田区生活展	10月15日(土)～16日(日)	大田区消費者生活センター 骨密度測定
10・20いのち守る国民集会	10月20日(木)	日比谷野外音楽堂　5,500人
第27回大田・品川健康まつり	10月23日(日)	丸子橋緑地　4,000人
全日本民医連・学術運動交流集会	10月28日(金)～29日(土)	東京・池袋
原発ゼロ大集会in福島	10月30日(日)	福島市　１万人
秋のウォークラリー	11月６日(日)	京浜運河　10人
放射線量測定学習会	11月25日(金)	大田区生活センター
秋のバス旅行	11月27日(日)～28日(月)	長野・安曇野　大町温泉 ちひろ美術館　71人
東京都生協連医療部会活動交流集会	12月10日(土)	中野・生協連会館
いのちを守るチャリティフェスタin大田	12月12日(月)	大田区民ホール・アプリコ
新春鎌倉ハイキング	１月15日(日)	鎌倉「やぐらめぐり」　37人
第29回新春ダンスパーティー	１月27日(金)	大田区消費者生活センター 27人
第２回駅伝フェスティバル	３月４日(日)	17組100人以上が参加。全チーム完走
震災復興でなくせ原発行動in東京	３月11日(日)	井の頭公園　8,000人
脱原発・昼休みパレード	３月13日(火)	大田病院地域・職員など120人
全日本民医連・医学生のつどい	３月25日(日)	大田病院・八潮団地　130人

この他、各地域で「健康相談会」「新春のつどい」「学習会」「バザー」などが多彩にとりくまれました。

生協組合員拡大実績（3月まで）

支　部	拡大目標	拡大実績	達成率	前年実績	前年差	前年比
西品川	60	25	41.7%	16	9	156.3%
品　川	5	1	20.0%	1	0	－
海岸八潮	20	7	35.0%	6	1	116.7%
ゆたか	75	43	57.3%	55	-12	78.2%
大　井	10	1	10.0%	1	0	100.0%
中　延	40	22	55.0%	13	9	169.2%
小　山	10	3	30.0%	4	-1	75.0%
六　郷	75	41	54.7%	36	5	113.9%
羽　田	10	3	30.0%	10.5	-7.5	28.6%
蒲田西	5	2	40.0%	4	-2	50.0%
馬　込	30	27	90.0%	30	-3	90.0%
池　上	10	9	90.0%	2	7	450.0%
うのき	70	21	30.0%	82	-61	25.6%
大森糀谷	220	144	65.5%	198.5	-54.5	72.5%
大森西北	60	27	45.0%	41	-14	65.9%
全体合計	700	376	53.7%	500	-124	75.2%

班会開催実績（3月まで）

支　部	班会目標	班会開催	達成率	前年実績	前年差	前年比
西品川	40	45	112.5%	47	-2	95.7%
品　川	5	0	0.0%	0	0	－
海岸八潮	80	102	127.5%	260	-39	85.0%
ゆたか	260	221	85.0%	260	0	100.0%
大　井	20	8	40.0%	8	0	100.0%
中　延	70	122	174.3%	18	104	677.8%
小　山	5	0	0.0%	1	-1	0.0%
六　郷	50	133	266.0%	128	5	103.9%
羽　田	50	58	116.0%	57	1	101.8%
蒲田西	10	8	80.0%	11	-3	72.7%
馬　込	40	33	82.5%	38	-5	86.8%
池　上	20	13	65.0%	21	-8	61.9%
うのき	50	16	32.0%	44	-28	36.4%
大森糀谷	140	132	94.3%	128	4	103.1%
大森西北	50	68	136.0%	71	-3	95.8%
全体合計	890	959	107.8%	901	58	106.4%

各支部の報告と方針

各支部での前進はありましたが、支部の再編成にはつなげられませんでした。活動が活発な支部は、支部での論議を深め支部分割していくことで活動の強化・発展となります。また、活動が少ない支部や立ち上げの準備をしている支部は支部運営委員会を開催するとともにコツコツと活動を増やしていくことが大切です。

2011年度は、中央池上支部で支部体制が確立し、支部運営委員会定例開催となったのは大きな前進です。

《仲間増やし・班会開催などの組織運営》３月までの到達は左表の通りです。